

2020年度 法科大学院

第2期入学試験問題

4時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

売買契約がX Y間に成立したものと主張して、XがYを被告として売買代金請求訴訟を提起した場合、裁判所は、売買契約がXとYの代理人との間で締結されたものと認定して判決をすることができるか。

(解答は全て解答用紙に記入すること)

[刑事訴訟法]

「被告人は、令和元年5月7日、S市内のA方において、同人所有の指輪1個を窃取した」との事実を訴因とする窃盗被告事件において、被告人Xは、「この指輪1個は、自分がA方で盗んだものではなく、令和元年5月8日、S市内路上において、甲から100万円で買い取ったものだ。」と弁解し、その後の捜査により、A方において前記指輪1個を窃取した犯人は甲であると判明した。

そこで、検察官は、裁判所に対し「被告人は、令和元年5月8日、S市内路上において、甲から、甲がA方で窃取してきたA所有の指輪1個を、それが盗品であることを知りながら、100万円で買い受けて盗品を有償で譲り受けた」との訴因に変更するよう請求した。裁判所は、この請求を許可することができるか。

関係する刑事訴訟法の規定を必ず摘示すること。